

ISSN 1881 - 980X

日本科学教育学会
Japan Society for Science Education
発行：小川正賢
事務局：神戸大学大学院
人間発達環境学研究科 内
URL：<http://www.jsse.jp>

2008.2.15

NO.186

科学教育研究レター



目次

- | | | |
|--|--|-----------------------|
| ■ 年会
第32回年会案内(第3次).....2 | ■ 学会賞
2008年度学会賞候補者の募集.....7 | |
| <table border="1"><tr><td>自主企画課題研究・ワークショップ・一般発表・
インタラクティブセッションの企画募集中</td></tr></table> | 自主企画課題研究・ワークショップ・一般発表・
インタラクティブセッションの企画募集中 | ■ 編集委員会だより.....8 |
| 自主企画課題研究・ワークショップ・一般発表・
インタラクティブセッションの企画募集中 | | |
| ■ 若手の会.....4 | ■ 会員の声
連載：学会賞受賞者から.....9 | |
| ■ 研究会・支部だより
平成19年度
第2回日本科学教育学会研究会・
四国支部会開催のお知らせ.....4 | ■ 学会員の皆様へ
所属の異動などによる個人情報の
修正手続きについて.....10 | |
| <table border="1"><tr><td>2月16日(土)：大会プログラム掲載</td></tr></table> | 2月16日(土)：大会プログラム掲載 | ■ 広報委員会からのお知らせ.....10 |
| 2月16日(土)：大会プログラム掲載 | | |
| 第3回日本科学教育学会研究会・
南関東支部会開催のお知らせ.....5 | | |
| <table border="1"><tr><td>3月1日(土)：大会プログラム掲載</td></tr></table> | 3月1日(土)：大会プログラム掲載 | |
| 3月1日(土)：大会プログラム掲載 | | |

1. 年会テーマ：転換期の科学教育：これからの科学的リテラシー

前回の年会では、「転換期の科学教育」のテーマをもとに、科学教育の新しい研究について議論しました。第 32 回年会は、新しい研究の方向性の一つとして「科学的リテラシー」に議論の焦点をあてることにしました。科学的リテラシーと数学的リテラシーを調査した PISA2006 の結果は、我々にどんな課題を示しているのでしょうか。また、PISA2006 の結果を踏まえた中央教育審議会の教育課程部会の答申や、現在審議されている新学習指導要領が示す新しい指針に対して、我々はどう受け止めれば良いのでしょうか。「知識基盤社会」の時代を担う子どもたちに必要な科学的リテラシーとは何なのか。そして科学好きの子どもたちを育成するためには、科学的リテラシー教育に我々はどう取り組むべきか。本年会では「科学的リテラシー」をテーマに、これからの科学教育のあり方を議論します。

2. 期 日：平成 20（2008）年 8 月 22 日（金）～ 24 日（日）

3. 会 場：岡山理科大学 25 号館、21 号館
〒700-0005 岡山市理大町 1-1

・アクセス：岡山駅西口を出て、岡電バスの岡山理科大学行に乗車して、終点にて下車（約 20 分、料金 190 円）

<http://www.ous.ac.jp/summary/access.html>

4. 主 催：日本科学教育学会

（後援 [予定]：文部科学省、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会、共催は未定）

5. 年会実行委員会

[委員長] 宮地 功（岡山理科大学）

[委 員] 野瀬重人（岡山理科大学）、洲脇史朗（岡山理科大学）、浦上澤之（岡山理科大学）、山本健治（倉敷芸術科学大学）、仁宮章夫（吉備国際大学）、柿原聖治（岡山大学）、秋吉博之（就実大学）

連絡先：〒700-0005 岡山市理大町 1-1

岡山理科大学 総合情報学部 情報科学科 宮地 功

Tel & Fax (086) 256-9651、Email : miyajji@mis.ous.ac.jp

6. 内 容：次の内容を予定しています。

(1) シンポジウム：

テーマ：「科学的リテラシー向上へ - 科学教育学会に求められるもの -」（案）

司 会：吉川 厚（教育測定研究所）

登壇者：学会関係、マスコミ関係、官庁関係、「科学技術の智」プロジェクト関係から 4 名の登壇者を検討中です。

(2) 学会企画課題研究発表：

以下のテーマの具体化を進めています。

① 数学的リテラシー関係のテーマ (オーガナイザー：清水美憲)

② 科学的リテラシー関係のテーマ (オーガナイザー：田代英俊)

③ 情報リテラシー関係のテーマ (オーガナイザー：加納寛子)

④ 高等科学教育関係のテーマ (オーガナイザー：鈴木 誠)

⑤ 持続可能な社会のための科学教育関係のテーマ (オーガナイザー：加藤 浩、荻原 彰)

(3) 招待講演「科学教育研究セミナー」：

特定の分野でアクティブに研究されている先生方をお招きし、会員向けに専門的なお話を

聞かせていただく招待講演です。学会論文賞を受賞されました①中山 迅先生(宮崎大学)、②竹中真希子先生(大分大学)のお二人を予定しています。

(4) その他の企画：①一般研究発表、②ワークショップ(教材教具の展示・演示を含む)、③インタラクティブセッション、④総会、⑤懇親会、⑥若手の会、⑦各種会合等。

7. 企画の募集：

(1) 自主企画課題研究 [公募中]：特定のテーマについて徹底的に議論できる場です。

・一次受付締切：平成20年2月29日(金)：仮のものでもかまいませんので、テーマ名、オーガナイザー、概要、連絡先をお知らせ下さい。申込みをされた方には、正式な申込み用紙をお送りします。

・企画受付締切：平成20年3月31日(月)：正式な申込み用紙に必要事項を記入して頂きます。

・企画応募先：*jsse-jishukikaku@freeml.com*

・原稿締切：平成20年6月15日(日)

・オーガナイザー資格：会員でなければなりません。

・筆頭発表者資格：筆頭発表者は会員、非会員を問いません。ただし、非会員による発表件数は、原則として全発表件数の半数を超えないものとします。半数を超える場合は、その理由を添えて申し込んで下さい。企画を受け付けるかどうかは、年会企画委員会で審議いたします。

(2) ワークショップ [公募中]：新しい学習指導法、実験方法、研究法などを体験的に学べる企画を募集しています。

・企画受付締切：平成20年3月31日(月)：仮のものでもかまいませんので、テーマ名、担当者名、概要、連絡先をお知らせ下さい。

・企画応募先：*jsse-workshop@freeml.com*

・原稿締切：平成20年6月15日(日)

・筆頭発表者資格：筆頭発表者は会員でなければなりません。

(3) 一般発表：

・発表申込みと原稿受付期間：平成20年5月26日(月)～6月15日(日)

・原稿締切：平成20年6月15日(日)

・原稿提出先：年会 web

・筆頭発表者資格：筆頭発表者は会員でなければなりません。筆頭発表者での発表件数は1件です。

(4) インタラクティブセッション [公募中]：

研究内容についてインタラクティブにじっくりと語り合う場です。例えば、①アイディアは新しいが検証の途上である研究、②新規性に欠けるが教育実践上有効性が高い研究、など、萌芽的な研究やチャレンジングな研究について語り合う形式が考えられます。また、教育実践の場で直ちに使える有効な実験方法や道具について、実演を通して語り合う形式も考えられます。セッションは2時間程度の時間を準備しますので、十分に時間をかけてインタラクティブに語り合う事ができます。

・企画受付締切：平成20年5月31日(木)：仮のものでもかまいませんので、テーマ名、担当者名、概要、連絡先をお知らせ下さい。申込みの際には、インターネット利用の有無、電源利用の有無、その他の希望を明記して下さい。ただし、条件によってはご希望に添いかねることもあります。

・企画応募先：*jsse-interactive@freeml.com*

・原稿締切：平成20年6月15日(日)

・筆頭発表者資格：筆頭発表者は会員でなければなりません。

8. エクスカーション：現在検討中です。

若手の会

○ 本年も、年会時に「若手の会」を開催します。現在若手の会幹事の間では、来年度の年会に向けて準備を進めています。年会では今年も、気軽かつ自由な議論を会員間で行なうため、「ラウンドテーブル」を用意する予定です。

つきましては、ラウンドテーブルで議論してみたいテーマについて募集しておりますので、ご意見があれば幹事まで御連絡ください。

※ メーリングリストは、非会員の方でも参加できます。科学教育にご関心のある方がお近くにいらっしゃいましたら、お誘いください。

○ 登録の申込方法：担当の加納寛子会員宛 <kanoh @ kdeve.kj.miyazaki-u.ac.jp> に、電子メールで「JSSE 若手の会メーリングリスト参加希望」とご連絡ください。

* 第 32 回年会「若手の会」企画担当委員：

加納寛子（山形大学） *kanoh @ kdeve.kj.yamagata-u.ac.jp*

岸本忠之（富山大学） *kisimoto @ edu.toyama-u.ac.jp*

清水欽也（広島大学） *kinyas @ hirosshima-u.ac.jp*

松浦拓也（広島大学） *takuyam @ hirosshima-u.ac.jp*

三宅志穂（高知大学） *smiyake @ cc.kochi-u.ac.jp*

研究会・支部だより

平成 19 年度第 2 回日本科学教育学会研究会・四国支部会開催のお知らせ

来る 2 月 16 日（土）に、平成 19 年度第 2 回日本科学教育学会研究会・四国支部会（鳴門大会）を開催いたします。発表の有無にかかわらず、また、会員でない方も参加できます（参加費無料）。是非、ご参加下さい。

[テーマ] 変動社会における科学教育

[日時] 平成 20（2008）年 2 月 16 日（土） 10：30～16：30

[日程] 10：00～ 受付
10：20～10：30 開会
10：30～11：30 講演①
11：30～12：30 昼休憩
12：30～13：00 四国支部総会
13：00～14：00 講演②
14：10～16：20 研究発表
16：20～16：30 閉会

[会場] 鳴門教育大学 地域連携センター 多目的教室

[連絡先] 〒772-8502 鳴門市鳴門町高島 748 鳴門教育大学 香西 武

Tel/Fax：088-687-6414 E-mail：kozai @ naruto-u.ac.jp

<プログラム>

座長：廣瀬隆司（鳴門教育大学）

講演① 10：30 創造的思考を活性化する方法 ー山登り式学習法の実践とその効果ー

○齋藤 昇（鳴門教育大学）

座長：伊東正貴（鳴門教育大学）

講演② 13:00 未来を担う子どもたちの学力の現実とこれからの方向：世界と日本の学力観の違い ―そして、日常の授業をどう改善すべきか、改善するか？―
○木村捨雄（鳴門教育大学）

座長：香西 武（鳴門教育大学）

発表 1 14:10 小学校と地域社会を結びつける協同学習の実践
○中村 泰（茨城大学人文科学研究科）・岡野正人（つくば市立田井小学校）・鈴木栄幸（茨城大学人文学部）

発表 2 14:25 日韓小学校 4 年生の TIMSS2003 理科到達度の比較研究

○孔 泳泰（晋州教育大学科学教育科）

発表 3 14:40 自ら学ぶ学習への支援 ―身近な出来事への興味を引き出す試み

○伊東正貴（鳴門教育大学）

発表 4 14:55 The value of more science lesson experiments for learners using English as a second language. Case study: SSH program chemistry lessons, Johnan high school 2007

○オングワエ・ジョージ・寺島幸生（鳴門教育大学学校教育研究科）・武田 清（鳴門教育大学）・泉 泰正・川尻直子・齋藤元秀・竹内常晃・平島久美子・森 圭子・日美由紀（徳島県立城南高等学校）

座長：武田 清（鳴門教育大学）

発表 5 15:20 不確実性（統計）事象の子どもたちの認識特性と「知の創造」社会に向かう統計教育の扱い

○木村捨雄（鳴門教育大学）

発表 6 15:35 不確実性（統計）現象の認識と小学生・高校生・教師向けの統計教育 e-Stat の開発 ―“見えるものを見る力”と“見えないものを見る力”を磨く「知の創造」社会に向けた e-Stat ―

木村捨雄・○石内久次（鳴門教育大学）

発表 7 15:50 中学生による堆積相に着目した地層観察の在り方 ～香川県中・東部における和泉層群北縁相を例に～

○吉川武憲（鳴門教育大学学校教育研究科）・香西 武（鳴門教育大学）

発表 8 16:05 科学的素養を培うスオウ（蘇木）の含有成分を用いた科学実験教材の開発

○猪木章夫（鳴門教育大学学校教育研究科）・早藤幸隆・平田絵梨・今倉康宏（鳴門教育大学）

平成 19 年度第 3 回日本科学教育学会研究会・南関東支部会開催のお知らせ

来る 3 月 1 日（土）、平成 19 年度第 3 回日本科学教育学会研究会・南関東支部会を千葉大学で開催いたします。発表の有無にかかわらずご参加いただけます（学会員は無料、学会員でない方は参加費 500 円です）。会場・プログラム等の詳細につきましては、学会 web の研究会・支部 HP をご参照下さい。

研究会の昼休憩の時間帯に、支部懇談会を開催いたしたく存じます。これからの支部活動のあり方に関しまして、皆様のご意見・ご要望等を伺いたく存じます。昼食をとりながらの懇談会を考えております。準備の都合上、ご参加くださる場合は事前にご連絡いただければ幸いです。よろしくお願ひ申し上げます。

<連絡先：藤田剛志 (fujitak@faculty.chiba-u.jp) >

[テーマ] 新しい時代を拓く科学教育

[日時] 平成 20 (2008) 年 3 月 1 日 (土) 10:00 ~ 16:30

10:10 ~ 10:30 受付
10:30 ~ 10:40 開会
10:40 ~ 12:00 研究発表 (午前の部)
12:00 ~ 13:00 昼休憩・支部懇談会
13:00 ~ 14:20 研究発表 (午後の部: 前半)
14:20 ~ 14:40 休憩
14:40 ~ 16:00 研究発表 (午後の部: 後半)
16:00 ~ 16:10 閉会

[会場] 千葉大学 社会文化科学系総合研究棟 1 階 マルチメディア講義室

[連絡先] 〒 263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33 千葉大学教育学部 藤田剛志

Tel/Fax : 043-290-2607 E-mail : fujitake@faculty.chiba-u.jp

<プログラム>

座長 : 瀬沼花子 (国立教育政策研究所)・藤田剛志 (千葉大学)

A01 10:40-11:00 図形の証明が未習の生徒を対象とした前形式的証明に関する授業の可能性とその有効性 - Geometric Constructor を利用した授業の実践を通して -

○河端善登 (千葉大学人文社会科学部)

A02 11:00-11:20 数学的モデルの深化過程の特徴 - 中学生によるモデリングを分析して -

○川上 貴 (千葉大学大学院教育学研究科)

A03 11:20-11:40 理科学習における感情と動機づけとの因果関係

○大園耕司 (千葉大学大学院教育学研究科)

A04 11:40-12:00 理科授業におけるモデルとモデリング - 中学校電気単元を事例にして -

○内ノ倉真吾 (筑波大学大学院人間総合科学研究科)

12:00-13:00 昼食休憩・支部懇談会

座長 : 鶴岡義彦 (千葉大学)・山下修一 (千葉大学)

A05 13:00-13:20 日本における理科創意性教育の現状

○孔 泳泰 (韓国晋州教育大学)

A06 13:20-13:40 理科におけるキャリア教材の開発 - 千葉県の教育資源を生かして -

○市原 猛 (千葉大学大学院教育学研究科)・鶴岡義彦 (千葉大学)

A07 13:40-14:00 深い理解をめざした『もののとけ方』の授業開発と評価

○小野寺千恵 (足立区立六木小学校)・山下修一 (千葉大学教育学部)

A08 14:00-14:20 自然選択説に関する漫画教材の開発 - 生物学史・生物哲学に基づいて -

○福井智紀 (麻布大学環境保健学部)・菊池郷史 (麻布大学環境保健学部)

14:20-14:40 休憩

座長 : 福井智紀 (麻布大学)・山崎良雄 (千葉大学)

A09 14:40-15:00 地学分野におけるデジタルコンテンツの活用法

○山崎良雄 (千葉大学)・高橋典嗣 (千葉大学)・田辺浩明 (千葉県立千葉女子高等学校)・田中千晴 (千葉大学)

A10 15:00-15:20 館山赤山地下壕跡を利用した立体的地学教材

○飯田和也 (千葉大学)・中條圭一 (千葉大学)・富川奈津子 (千葉大学)・山崎良雄 (千葉大学)・高橋典嗣 (千葉大学)

A11 15:20-15:40 宇宙時代のための天体軌道シミュレーション教材の開発

○高橋典嗣 (千葉大学)・富川奈津子 (千葉大学)・山崎良雄 (千葉大学)・吉川 真 (JAXA)・黒田大介 (国立天文台)・西山広太 (日本スペースガード協会)

A12 15:40-16:00 大陸移動のデジタル教材化
○古澤亜紀 (明治学院高等学校)・松丸国照 (元埼玉大学)・山崎良雄 (千葉大学)・高橋典嗣 (千葉大学)

(文責：南関東支部 藤田剛志(千葉大学))

学会賞

2008 年度学会賞候補者の募集

本学会の学会賞：学会賞（大塚賞）、学術賞、国際貢献賞、論文賞、奨励賞及び教育実践賞を下記により募集します。すべての賞は会員からの推薦に基づいて審査されますので、ご活躍の候補者について、多数の推薦をお願い致します。

1. 推薦期限

平成 20 (2008) 年 5 月 22 日 (木) (必着)

2. 受賞資格

(1) **学会賞（大塚賞）**：科学教育に対する優れた業績や功績によって本学会の発展に寄与した本会会員。

(2) **学術賞**：科学教育において先導的・開拓的な業績や功績を挙げ、本学会の発展に寄与した本会会員。対象となる業績や功績は、賞の応募締切日から過去 10 年以内のものとする。

(3) **国際貢献賞**：科学教育の国際貢献・国際協力研究において特に顕著な業績や功績のあった本会会員。対象となる業績や功績は、賞の応募締切日から過去 5 年以内のものとする。

(4) **論文賞**：科学教育に関する優れた研究を行い、その成果を本学会の「科学教育研究」誌に発表した本会会員。対象となる論文は、賞の応募締切日から過去 3 年以内に発表されたものとする。

(5) **奨励賞**：科学教育に関する優れた研究を行い、その成果を本学会の「科学教育研究」誌、年会論文集、研究会「研究報告」に発表した本会会員で、受理の時点で、原則として満 38 歳未満の者。対象となる論文等は、賞の応募締切日から過去 2 年以内に発表されたものとする。

(6) **教育実践賞**：科学教育の実践研究において特に顕著な業績や功績のあった本会会員。また、該当する本会会員との連携により、科学教育に従事し、教育上顕著な業績や功績のあったグループ。対象となる業績や功績は、賞の応募締切日から過去 3 年以内のものとする。

3. 受賞件数

大塚賞、学術賞及び国際貢献賞の件数はとくに定めない。論文賞、奨励賞及び教育実践賞の件数は 2 件以内である。

4. 選考

本学会の学会賞選考委員会が候補者を選定し、理事会が決定する。

5. 賞

(1) 本賞は賞状とする。

(2) 賞の贈呈は、2008 年度定時総会において行う。

6. 候補者の推薦

- (1) 候補者を推薦する者は、本学会の会員とする。大塚賞は他薦のみによるが、その他の賞は自薦も可とする。
- (2) 推薦者は、推薦の様式を学会ホームページから入手の上、その様式にしたがって作成した推薦書を日本科学教育学会事務支局に提出する。
- (3) 奨励賞の推薦に当たり、論文などの著者が複数の場合は、受賞候補者は主著者となるため、他の全著者の承認が必要となる。この承認は、推薦者において予め得ておくものとする。

7. その他

論文賞対象論文は、「科学教育研究」Vol.29、No.2以降に掲載の論文です。また、奨励賞の対象は、「科学教育研究」Vol.30、No.2以降、研究会「研究報告」Vol.20、No.6以降及び第30回・第31回年会論文集に掲載の論文が該当します。

編集委員会だより

編集委員会は、平成19(2007)年11月17日(土)以降は開催されておられません。11月1日から新システムによる投稿受付を開始し、1月15日現在の編集状況は、旧システムでの査読中論文7篇(和文6篇、英文1篇)を残し、新査読システムが同時に動いています。第31巻第3号[研究論文3篇、実践論文5篇、プラザ1篇]、特集:15篇[招待論文:5篇、総説・展望1篇、研究論文7篇、実践論文1篇、資料1篇]が掲載決定しています。新システムでは新規投稿論文が9篇、審査中論文は8篇で、掲載決定論文はありません。査読の流れが変わり、担当編集委員と2名の査読委員体制で、2回までの審査という新しい流れで審査が行われています。ご協力ありがとうございます。また、来年度の特集のテーマと担当者については、平成20(2008)年3月の理事会までに決定できるよう編集委員長を中心に引き続き、メール審議を続けております。最近1年間の学会誌の編集状況は下の表の通りです。皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。編集委員会に対するご意見等がございましたらお知らせ下さい。

以上

「科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況 (2008年1月15日現在)

年 月	新規投稿論文数(篇)		掲載決定論文数(掲載号)		掲載拒否(辞退)論文数
	和 文	英 文	和 文	英 文	
2007年					
1月	2	1	1(30-5) 1(31-1)		(1)
2月	1		4(31-2)		2(1)
3月	4		2(31-2)	2(31-3)	1(1)
4月	3		2(31-2)		
5月	7				(1)
6月	19			1(31-3)	(2)
7月	5	1			(1)
8月	1		4(31-4)		4(3)
9月			1(31-4)		2
10月	1	1	2(31-4)		2(2)
11月	1	1	8(31-4)		1(1)
12月	6	1	4(31-4)		1(2)
2008年					
1月		2			

第31回定期総会において学会賞を受賞された先生方に、本欄へ寄稿していただいています。本号は掲載3回目です。

日本科学教育学会奨励賞を受賞して

出口明子（神戸大学大学院総合人間科学研究科／
日本学術振興会特別研究員）

この度、第31回年会において日本科学教育学会奨励賞をいただきました。このような身に余る賞をいただき、驚くとともに大変有り難く思っております。本論文の審査にあたって貴重なご意見をいただいた査読委員の先生方、また、本論文を奨励賞に推薦して下さった先生方に、心より御礼申し上げます。

受賞対象の論文では、これまでに共同研究で開発を進めてきた「再構成型コンセプトマップ作成ソフトウェア」について、このソフトウェアの最大の特徴である「再生機能」に大幅な機能拡張を実施し、その実験的な評価を行いました。今回の機能拡張で新たに実装した「ブックマーク機能」は、学習者によるリフレクションを従来以上に促進することを目的としたものでした。実験的な評価を通して、新たな機能の有効性が示唆されたことは、学習者のリフレクション支援の研究という意味において有用な知見が得られたものと考えています。

この「再構成型コンセプトマップ作成ソフトウェア」に関わる研究では、共著者の先生方とプロジェクト体制を組織し、ソフトウェアの開発や普及、評価を継続して行ってきました。本研究プロジェクトでは、理科教育、及び教育工学を専門とする研究者がチームとなって、協同的に研究を進めてきています。具体的には、まずチームのメンバー全員でソフトウェアの開発方針を策定し、その開発方針に基づいて、主に教育工学の研究者が技術的な面での開発を担い、また、主に理科教育の研究者がそのソフトウェアの特性を最大限に発揮し、かつ学習者の学習に最も有効な支援を提供し得る理科授業デザインの開発を行ってきています。さらに評価や総括においては、互いの研究領域の立場から議論をたたかわせ、研究成果としてまとめあげてきました。

このプロジェクト型の研究体制によって、テクノロジーを利用した学習支援という、理科教育や教育工学のそれぞれ単一の研究領域では困難であった研究を推進し、継続することが可能であったのだと考えています。このような成果はまさにプロジェクト型研究の利点であり、研究プロジェクトのメンバーとしてこれまで研究活動を行ってきたことは、今後の研究の糧になるものと感じています。

今後も、自分自身の研究領域の専門性を深めていくとともに、他の様々な研究領域の先生方とのプロジェクト研究も展開していくことで、今後の科学教育研究の発展に寄与するような成果を挙げられるよう、研究活動に励んで参りたいと思っております。



学会事務局

学会 web や『科学教育研究レター』等によってお知らせいたしましたように、これまで国立教育政策研究所で行っていました庶務、会員・経理、編集等の事務局業務を、昨年 10 月から、中西印刷株式会社に業務委託しております。それに伴い、会員データベース・システムも中西印刷株式会社学会部に設ける学会事務支局において管理していただく体制になりました。あわせて、同社の個人情報保護ポリシーに基づき、学会 web に掲載されていた会員専用ページが廃止されました。

これにより、これまで会員専用ページで可能であった、会員情報確認や会員検索ができなくなりました。ご不便をおかけしますが、個人情報を保護するための措置として会員データベースへのアクセスを遮断することをご理解ください。

なお、会員専用ページにおいて各会員が行っていた所属の異動などによる個人情報の修正は、中西印刷株式会社学会部内の学会事務支局にて行いますので、下記宛に随時ご連絡ください。

 日本科学教育学会事務局
 〒 602-8048 京都市上京区下立売通小川東入
 中西印刷株式会社 学会部内
 TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662
 E-Mail : 学会 web の問い合わせページ（事務局（庶務）宛の web メール）
 をご利用ください。

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 186 号をお送りいたします。お気づきの点などございましたら、学会 web サイトにある「お問い合わせ」（web メール）をご利用のうえ、お知らせください。

担当理事：磯崎哲夫（広島大） 東原義訓（信州大）
 委 員：加藤久恵（兵庫教育大） 久保田英慈（愛知産業大三河中） 清水欽也（広島大）
 杉本雅則（東京大） 二宮裕之（埼玉大） 森山 潤（兵庫教育大）
 山口悦司（宮崎大）
 幹 事：平野俊英（島根大）

科学教育研究レター 編集・印刷

日本科学教育学会広報委員会

日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL : <http://www.jsse.jp>

□事務局 神戸大学大学院人間発達環境学研究所 内

□事務支局（入退会・会費・学会誌発送関連） TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662
 E-mail : jsse@nacoss.com

中西印刷（株）学会部 内 〒 602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

□編集事務局（論文投稿・査読編集） TEL : 075-415-3155 FAX : 075-417-2050
 E-mail : jsse-hen@nacoss.com

中西印刷（株）学会部 内 〒 602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座 : 00170-6-85183 日本科学教育学会

銀行口座 : みずほ銀行 京都中央支店 普通 2269008 日本科学教育学会